

科目名	リコーダー合奏 A, B	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	竹内 梓	単位	1	年次	1

＝授業科目の目標＝

ソプラノリコーダー（バロック式、ジャーマン式）、アルトリコーダー（バロック式）の実技演習を、ギースベルトの教本を用いて行ない、初歩の曲の演奏の技術を習得する。

＝履修の条件と学習の方法＝

ソプラノリコーダー、アルトリコーダー共にバロック式を持参のこと。
ギースベルトの教本を主に、アンサンブルの曲を併用し合奏をする。

＝授業内容＝

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 ジャーマン式、バロック式の相違（運指の長所、短所）
- 3回 タンギング、スラーの奏法（舌突の有無）
- 4回 リコーダーによるピッチカート（タッピング練習）
- 5回 フレーズとブレスの関係（有効なブレス位置）
- 6回 ポルタート、ノンレガート、スタッカートの奏法（音の長さの違い）
- 7回 低音のタンギング（du、dhu）
- 8回 トリル及びそれに伴う替指（なめらかな終結音への連結）
- 9回 ダブルホールのスムーズな運指（右薬指小指の動き）
- 10回 クロマティック（クロスフィンガー）
- 11回 最高音域（息の強さ、アタック、サミングホールのコントロール）
- 12回 装飾法について（モルデント、トリラー他）
- 13回 独奏のためのテクニック（フレージング、アーティキュレーション）
- 14回 合奏（アンサンブル）
- 15回 独奏による試験

＝成績評価の方法と評価の基準＝

試験は、集中講義の最終日に、ソプラノリコーダー、アルトリコーダーによる各1曲ずつの独奏曲をあてる。成績は、出席状況、試験の結果、授業態度など考慮して評価する。出席状況に加え、技術や表現力が優れている場合はS評価、特に問題がない場合はA・B評価、ただし欠席遅刻が著しい場合、授業の妨害行為などが認められる場合はC・D評価もある。

＝テキスト（必携）＝

《No. 1》

書籍名：ギースベルトリコーダー教本

著者名：F. J. ギースベルト

出版社：日本ショット株式会社

販売先：Yショップ

《No. 2》

書籍名：ソプラノ・アルト・テナー・バスリコーダーのための
リコーダーメソッド

著者名：F. J. ギースベルト

出版社：日本ショット株式会社

販売先： Yショップ

=その他=